

## 令和2年度学校経営報告

### (1) 目指す学校

教育目標「国家社会の形成者として必要な一般的教養及び農業に関する専門的技術と科学的態度を身に付け、あわせて明るい社会づくりに貢献しようとする人材の育成を図る」を達成するため、「誠実、勤勉、自主、協調」の綱領を定め、次に示す学校を目指す。

- ①「環境教育実践宣言校」としてあらゆる場面で環境に配慮するとともに環境について考えさせる教育活動を実践する学校
- ②生き生きとした意欲的な学習活動を通して生徒の個性と能力を伸長させ、自信と誇りをもって社会に送り出すことのできる学校
- ③生徒一人一人が、個々の特性を発揮して相互に交流を深め、豊かな人間関係と規範意識が育まれる学校
- ④教職員が自ら専門職としての能力の向上に努め、生徒、保護者、地域の期待に応えられるよう、その能力を発揮しながら年々の進展を示す学校
- ⑤伝統ある専門高校としてもつ教育財産や教育機能を積極的に開放しながら地域社会に貢献し、農業、食料、環境に関する地域の教育・研究センター的役割を果たす学校
- ⑥これまでの歴史と伝統を活かしながら、地域社会や都民の要望に積極的に応えていく学校

### (2) 中期的目標と方策

#### ① 学習指導の充実

学習支援や資格取得指導を通じ、学力を向上させ将来への意欲をもたせるとともに、自己への自信と生きる力を育成する。また、主権者教育やオリンピック・パラリンピックの意義を踏まえた教育を実施する。

#### (a) 学力向上

- ア 学力スタンダード、技能スタンダードに示した内容に基づき、アクティブ・ラーニングを活用した深い学びを通じ思考力・判断力・表現力を高め、知識・技術を習得させる。
- イ ICT機器を活用し、効果的な学習指導により分かる授業を展開する。
- ウ 各教科において、言語能力の充実を図る。
- エ 少人数授業や習熟度別授業、ALT、市民講師等の外部人材を効果的に活用した、きめ細かく質の高い授業を展開する。
- オ 専門教科においては、特色化、生產品の開発、インターンシップの充実等を通じて、地域産業の進展に対応できる指導を行う。

#### (b) 学習支援

- ア 授業時間内外に関わらず、きめ細かな学習指導を行う。
- イ 学びの環境づくりを推進し、自主学習を奨励する。

#### (c) 資格検定指導

- ア 計画的に資格検定の指導を行い、専門分野への関心を高めさせる。
- イ 学習内容に準拠した資格検定の指導を通じ、産業人に必要な知識・技術を身に付けさせる。
- ウ 農業生産工程管理（GAP）や HACCP 等の教育を推進する中で農業における国際基準となる安全安心の理解を深めオリ・パラ教育のレガシーとなるよう指導する。

#### (d) 学校農業クラブ活動

- ア 計画的にプロジェクト学習（達成型プロジェクトや開発型プロジェクト）に取り組み成果を発表させる。
- イ 学習の成果を各種競技会やコンクール、FFJ 検定に繋げ生徒に成就感を持たせる。

#### ② 生活指導の充実

生活指導指針に基づき規範意識を高め、生活習慣や社会人の基礎を身に付けさせる。

#### (a) 規範意識の向上

- ア 時間厳守の指導を徹底し、基本的な生活習慣を確立させる。
- イ 礼節指導や集会指導を通じて、自立した社会生活を営むための基礎を身に付けさせる。
- ウ いじめ・暴力防止や自他の生命を大切にする指導を通じて人権を尊重する教育を推進し豊かな心を育む。

(b) 安全教育

- ア SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の利用に関する指導や薬物・特殊詐欺等から身を守る指導を通じ規範意識を醸成する。
- イ 防災訓練・講話、セーフティ教室等を実施し、災害や交通事故から自己を守る意識を醸成する。

③ 進路指導の充実

生徒一人一人が希望する進路の実現を図る。

(a) キャリア教育

- ア 各学年に対応した計画的なキャリア教育を実施する。
- イ キャリア教育を組織的に推進し、希望の進路を実現するために必要な能力を育成する。

(b) 進路情報収集

- ア 生徒の学力・適性を踏まえた指導を充実させる。
- イ 生徒が求める進路情報を収集し提供することを通して、充実した指導に繋げる。

(c) 進路試験対策

- ア 進路実現に必要な基礎学力を身に付けさせる指導を行う。
- イ 論文・面接指導を組織的に行う。

④ 特別活動の充実

充実した学校生活を送るために、学校行事や部活動に積極的に参加させる。

- ア 学校行事、ホームルーム活動、委員会活動、部活動等に積極的に参加させ自主性や探究心、社会性を育む。
- イ 教育活動全般を通じて、主権者教育やオリンピック・パラリンピック教育に取り組み、社会の一員としての知識と態度を身に付けさせる。
- ウ 主権者としての在り方教育を行う。

⑤ 広報・募集活動の充実

教育活動の広報を通じて、本校への理解を促し生徒募集・進路先確保につなげる。

- ア ホームページや各種たより等により、学校情報を保護者や地域社会へ積極的に発信する。
- イ 中学校訪問や出前授業、体験入学、学校説明会等を積極的に行い、中学生とその保護者、中学校教員に対して本校への理解を深めさせる。
- ウ 本校の教育活動を上級学校や企業に広報し、生徒の進路先を確保する活動を充実させる。

⑥ 生徒の健康づくりの充実

心身の健康維持を図り、心の問題や対人関係に悩む生徒を支援する。

- ア 健康で充実した学校生活が送れるよう、きめ細かな健康指導を行うとともに、「アクティブプラン to2020—総合的な子供の基礎体力向上方策（第3次推進計画）—」を踏まえ、体力向上を目的とする学校行事への理解を深めさせ、積極的に参加する態度を養う。
- イ 多様な生徒への理解を深めるため、スクールカウンセラーを活用するとともに研修会を行う。
- ウ スクールカウンセラーと連携した特別支援教育や個別指導の充実を図り生徒の支援を行う。
- エ 生徒自身が心身の健康を考え生活習慣の向上を図るよう取り組む。

⑦ 学校経営の充実

円滑な教育活動の実施に必要な取組を行う組織と施設・設備の充実を図る。

- ア 教育課程の実施に必要な取組を適正に実施するとともに学校評価アンケート等の情報を学校改革推進の指標とする。
- イ 教育委員会主催の推進校事業を通じ、教育財産を有効に活用するとともに、本校の教育力を向上させる。
- ウ サービスの厳守、ICT機器を活用した個人情報管理等、校務管理の徹底を図るとともに、個人情報の適切な取扱いを厳守する。
- エ 持続可能な開発目標（SDGs）の考え方を取り入れ環境保全、美化活動、省エネ、節電への取り組みを組織的に行う。
- オ 経営企画室と連携し、予算編成、計画執行を確実に行う。
- カ 実験実習室、農場、施設・設備、物品、生產品の管理を徹底する。
- キ 農場の再編成・整備を実施し農場の効率化を図る。
- ク ライフ・ワーク・バランスを充実させるための積極的な取り組みを行う。

⑧ 地域貢献の充実

- ア 地域連携、地域貢献活動を推進し、生徒が有為な社会人となるための資質を育む。
- イ 専門教育を活かした小・中学生、地域住民対象の体験講座等を実施し地域貢献活動を推進する。
- ウ 自治体や各種団体との連携活動を通じ、地域に根ざした専門高校としての位置付けを確立する。

### （３）今年度の取組目標と方策

#### 【 教育活動の目標と方策 】

##### ①学習指導の充実

###### （a）学力向上

- ア ITC機器の活用等を通じて分かる授業を実践し、知識・技術の向上を図る。
- イ 技能スタンダードに基づき実施する「日本農業技術検定３級」合格率を85%以上とする。
- ウ 生徒が理解しやすいよう工夫された授業を展開する。
- エ 全ての教科でアクティブ・ラーニングを実践し、考察力（情報収集力、考える力、説明力）等の能力向上を図る。
- オ 産業現場見学やインターンシップを通じて、産業界の実態を学習させる。

###### （b）学習支援

- ア 特別な支援を含めきめ細かく、手厚い指導を通じて学力の向上とともに、適正な学習姿勢を身に付けさせる。
- イ 学力向上研究校として学習する機会や環境づくりに努め、個々の生徒の学力伸長を図る。

###### （c）資格取得・認証等

- ア 資格検定やコンクール等の取組を通じ効果的な授業を行う。
- イ 専門教科は「技能スタンダード」に基づき計画的に資格取得に取り組む。
- ウ GAP 認証について学習させるとともに、指導員を招聘し GAP で求められる農業生産物の生産環境や HACCP 等について学習させる。

###### （d）学校農業クラブ活動

- ア 計画的にプロジェクト学習（達成型プロジェクトや開発型プロジェクト）に取り組み成果を発表させる。
- イ 学習の成果を各種競技会やコンクール、FFJ 検定につなげ生徒に成就感を持たせる。

##### ②生活指導の充実

###### （a）規範意識の向上

- ア 登校時間や提出物の期限など時間を守る姿勢を身に付けさせる。
- イ 授業や集会等の機会をとらえ礼節指導を行う。
- ウ 自他を大切にすることを指導を計画的に行う。
- エ 「いじめ総合対策」に基づき、各学期に「いじめチェックシート」を生徒全員に実施し一人一人の状態を把握する。

###### （b）安全教育

- ア SNS等の利用についての心得を身に付けさせる。
- イ 生徒を校内外における危険から守る指導を行う。
- ウ 防災活動や防災訓練を通じて、災害時の対応方法について学習させる。

##### ③進路指導の充実

###### （a）キャリア教育

- ア 低学年から計画的なキャリア教育を実施し、社会の一員としての基礎を身に付けさせる。
- イ 希望進路を早い段階で明確化させ、必要となる学習内容を把握させる。

###### （b）進路情報収集

- ア 生徒が希望する進路を実現するため、小論文、面接指導をはじめ進路先に応じた具体的な指導を行う。
- イ 進路実現に必要な学力等を向上させるため、放課後、休日及び長期休業中の講習を開催する。
- ウ 生徒が必要とする進路情報の提供に努める。

###### （c）進路試験対策

- ア 上級学校、企業訪問を通じ、進路先が求める生徒像等への理解を深め、生徒への的確な指導に繋げる。

#### ④特別活動・その他の充実

ア 様々な活動を通じ、自主性や社会性、協調性を身に付けさせる。

イ オリンピック・パラリンピック教育等を通じ、グローバル化へ向かう社会に対応できる人材を育成する。

ウ 主権者教育を通じて、社会の一員としての自覚と果たすべき役割について理解させる。

#### ⑤広報・募集活動の充実

ア ホームページや充実した募集活動を通じ、受検者を確保する。新聞、メディア等を活用した学校情報を発信し農業教育への理解を高める。

イ 生徒による出身校訪問や教員の中学校訪問、塾訪問を推進する。

ウ 教員による企業訪問を推進し、早期の離職防止を図ることで、本校の信頼向上につなげる。

#### ⑥生徒の健康づくりの充実

ア 心と体のきめ細かな管理を通じて、多様な生徒への適切な指導を行う。

イ 教職員は、校内外の研修を通じて心と体の健康づくりについて研修を行う。

ウ 教育相談活動の充実を図り、多様な生徒への適切な教育支援を行う。

エ 「高校生の意識調査」を実施しその結果を生徒指導に反映させ生命にかかわる事故の防止を図る。

オ 部活動においては、週に1日の休養日を設け学校生活の充実させるよう指導を徹底する。

#### ⑦学校経営の充実

ア 教育課程を適切に実施する。

イ 「学力向上研究校」や「理数研究校」の活動を通じ、専門教育を幅広く展開し、専門性の向上を図る。

ウ 体罰・不適切な指導の撲滅、電子・紙情報等の個人情報管理を徹底する。

エ 「環境教育実践宣言校」として、環境保全意識の高揚を図る。

オ 公費・私費会計等の適正な会計処理を行う。

カ 農薬・薬品等の管理簿を整え適正な管理を徹底するとともに生産品の処理を適切に行う。

キ 農場経営の長期計画に基づき、計画的に農場の近代化を図る。

ク 情報資産の共有化や校務のIoT化を図り、業務の縮減に組織及び個人として取り組む。

#### ⑧地域貢献の充実

ア 自治体や各種団体等との連携活動を通じ、生徒に社会の一員としての意識を高めさせる。

イ 小学校、中学校をはじめ地域との連携活動を通じて地域に貢献する。

ウ 部活動やボランティア活動等を積極的に行い、地域と連携し生徒の活躍の場を広げる。

エ 土曜日教育支援体制等構築事業を活用し、専門教育の特色を生かし地域連携の充実を図る。

### 【重点目標と方策】

#### ① 学習指導の充実

ア 生徒による授業評価を7月、12月に実施し、授業改善やICTの効果を検証するとともに生徒に自宅学習の時間を増やさせるよう取り組む。アクティブ・ラーニングを活用した、分かる・楽しい・ためになる授業を実践し、学力を高めさせる。

イ 技能スタンダードに基づき実施する「日本農業技術検定3級」合格率を85%以上とする。「2級」を5名合格させる。

ウ 言語能力（読解力、論述力、聴く力、質問力、発表力）を高めるとともに考察力の向上を図る授業を展開する。

エ 放課後、休日、長期休業日等を活用した授業や補習、個別指導を通じ学力の向上を図り、進路実現につなげる。校内寺子屋及び特別講習（40講座以上）を開講する。

オ 地域や産業界の実態を基に学習させるため外部講師による講演や授業を計画的に取り入れる。

カ 専門教科においては、必要とする知識・技術の指導や理数研究校として生徒の興味・関心を高め、専門的能力を向上させる。

ク 資格検定の受検を推奨し、合格数450件を目標とするとともに、アグリマイスター顕彰制度「シルバー」取得（12名）を目指す。

ケ 学校農業クラブ活動では、プロジェクト発表会をはじめ各種競技会に積極的に参加させ、2年生までにFFJ検定中級を全員に取得させる。

#### ② 生活指導の充実

- ア 登校時の遅刻をクラス1日あたり 1.0 人未満を目指し、その達成に向け個別指導を充実する。
- イ 礼節指導を通じ、自律への意識を高める。
- ウ SNSの利用方法を含め人権尊重意識の高揚の講演会を複数回実施し、いじめ防止を図る。
- エ 薬物、交通事故、特殊詐欺等についてセーフティ教室等を通じ自らを守る指導を行う。
- オ 防災訓練等を通じて、自助、共助への意識を高めさせるとともに危機管理意識を醸成する。
- ③ 進路指導の充実
  - ア 農業及び農業関連産業への進路選択者を 60%以上とする。
  - イ 生徒一人一人の適性或希望に合わせた進路指導を徹底し、進路決定率 100%を目指す。
  - ウ 進路講座や上級学校見学、会社訪問等への指導を通じ、生徒が必要とする進路情報を提供する。
  - エ 教員による上級学校 (60 校)、企業 (40 社) の訪問を確実に実施し、進路先の求める生徒像を把握する。
  - オ 農業関連の産業現場見学・実習等の機会を通じて、生徒の進路意識を高めさせる。
- ④ 特別活動等・その他の充実
  - ア 学校におけるあらゆる教育活動を通じ、学校行事やホームルーム、部活動を通じて自主性、協調性を養う指導を行う。
  - イ 様々な活動を通じて、自主性や社会性、協調性を身に付けさせる。
  - ウ コンクールや競技会等 (20 種以上) に積極的に挑戦させ、学習や生活への意欲を高めさせる。
  - エ 各専門学科においては、学科で取り組む研究課題を樹立し、課題研究、競技会等と連動させる。
  - オ 部活動指導では、生徒・保護者に指導方針、年間指導計画 (非活動日) 等を明示し活動への理解を求める。
- ⑤ 広報・募集活動 の充実
  - ア ホームページを見やすくわかりやすいものにリニューアルする。
  - イ ホームページ更新計画を作成する。各学科・分掌が更新計画に基づき主体的にホームページの更新 (85 回以上) を行うとともに、外部への発信を積極的に行い、本校の特色を広報する。
  - ウ 教員・生徒による出身中学校訪問、中学校教員・塾講師向け学校説明会 (2 回) を実施し、各学科とも第一次募集において 倍率 1.2 倍以上を確保する。
- ⑥ 生徒の健康づくりの充実
  - ア 生徒の状況を個別指導計画で把握し、生徒の教育支援を継続して行う。
  - イ 全教員に「気になる生徒」調査を実施し、特別支援教育の更なる充実を図る。
  - ウ 教育相談活動の充実と教育支援委員会 (20 回)、特別支援コーディネータ、スクールカウンセラーとの連携を深め、生徒が安心して学校生活できる環境づくりに努める。
  - エ「高校生の意識調査」を長期休業後の早い時期に実施し生徒の状況を把握する。
- ⑦ 学校経営の充実
  - ア 研究推進校事業を通じ、生徒の探求心を向上させ、学習への意欲を高めさせる。
  - イ 省エネルギー、節水等の環境保全や美化活動を実践する。
  - ウ 計画的な予算執行を行い、自律経営予算の執行率 98%以上とする。
  - エ 私費会計の計画的執行を徹底する。
  - オ 農場整備を計画的に行い、特色ある農場とする。
  - カ 適正に薬品・農薬を保存するとともに使用簿を充実させる。
  - キ 調査やアンケートのクラウド化を図り教職員の負担を軽減する。
  - ク 創立 120 周年行事を行う。
- ⑧ 地域貢献の充実
  - ア 本校の専門教育の特色を、地域に広く提供し貢献活動を推進し、本校への理解を高める。
  - イ 生徒を様々な連携事業や行事に参加させ、様々な体験や経験を積ませ人間的成長を促す。

## 【 数値目標・結果 】

| ① 学習活動            | 目標       | 結果           |
|-------------------|----------|--------------|
| ア 原級留置者の低減維持      | ■ 0.2%以下 | (31年度 0.00%) |
| イ 教科関連資格・検定合格者    | ■ 450件以上 | (31年度 505件)  |
| ⑦ 生活指導            |          |              |
| ア クラス1日当たりの遅刻者数減少 | ■ 1.0人未満 | (31年度 1.7人)  |

|                   |          |              |
|-------------------|----------|--------------|
| イ 中途退学率を低減維持する    | ■ 0.0%以下 | (31年度 0.47%) |
| ⑧ 進路指導            |          |              |
| ア 農業及びその関連企業への進路  | ■ 75%以上  | (31年度 77.5%) |
| イ 卒業時の進路未決定者の低減維持 | ■ 0.0%以下 | (31年度 1.4%)  |
| ⑨ 募集対策            |          |              |
| ア 各学科の第一次募集最終応募倍率 | ■ 1.2倍以上 | (31年度 1.02倍) |